

第4回 高津川河床掘削懇談会
～ 今後の掘削とその影響について～

令和元年8月30日

国土交通省 中国地方整備局

浜田河川国道事務所

- 近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、特に緊急に実施すべき対策として、「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」が昨年12月に閣議決定された。
- この緊急対策の一環として、河川分野においては、全国の約2,340河川を対象として、氾濫による危険性が特に高い等の区間において、樹木・堆積土砂の撤去を行う方針としている。

【ハード対策】防災のための重要インフラ等の機能維持

※対策については主なものを記載

水害・土砂災害から命を守るインフラの強化

■ 水害・土砂災害から国民の命を守るため、インフラを強化する

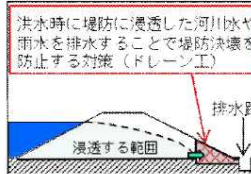
- ✓ 氾濫による危険性が特に高い等の区間において、樹木・堆積土砂等に起因した氾濫危険性解消を概ね完了(約2,340河川)



樹木伐採のイメージ

- ✓ 堤防決壊が発生した場合に湛水深が深く、特に多数の人命被害等が生じる恐れのある区間において、堤防強化対策等を概ね完了(約120河川)

- ✓ 土砂災害により避難所・避難路の被災する危険性が高い箇所のうち緊急性の高い箇所において、円滑な避難を確保する砂防堰堤の整備等の対策を概ね完了(約620箇所)



堤防の強化対策のイメージ

- ✓ 土砂・洪水氾濫により被災する危険性が高い箇所のうち緊急性の高い箇所において人命への著しい被害を防止する砂防堰堤、遊砂地等の整備や河道断面の拡大等の対策を概ね完了(約410箇所<砂防>、約20箇所<河川>)



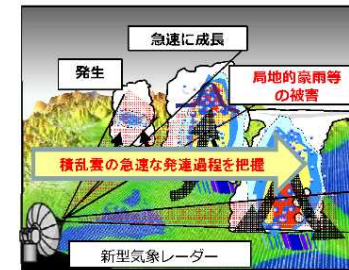
遊砂地の整備のイメージ

国土強靱化のため、全国の約2,340河川を対象として、樹木伐採、河床掘削を実施

災害時にインフラの機能を維持するための電源確保

■ 地震時など電力供給が停止した際にもインフラの機能を維持できるよう非常用電源等を確保する

- ✓ 下水道施設(約200箇所)
- ✓ 道路施設(約1,600箇所)
- ✓ 気象・地震等観測施設(約1,100箇所)
- ✓ 水文観測所(約1,100箇所)
- ✓ 河川監視カメラ(約500箇所)



積乱雲の発達を把握する気象観測施設(イメージ)



観測施設のバッテリーを強化



臨時設置用衛星通信機器の整備

観測施設における非常用電源等の確保

データの確実な提供・活用のための機能強化

■ 災害時でも運用を継続し、データを安定的に提供する

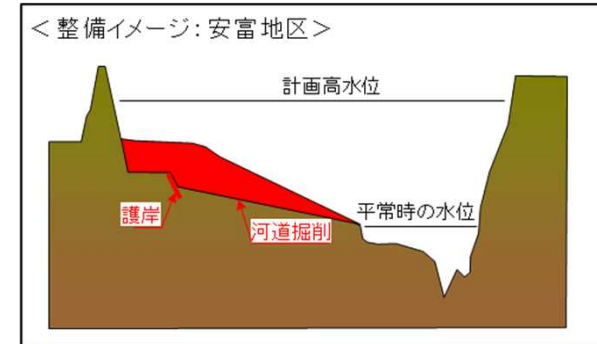
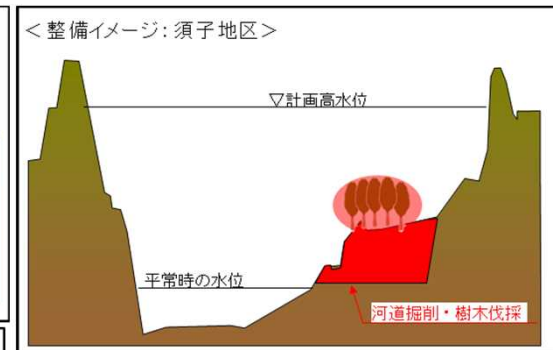
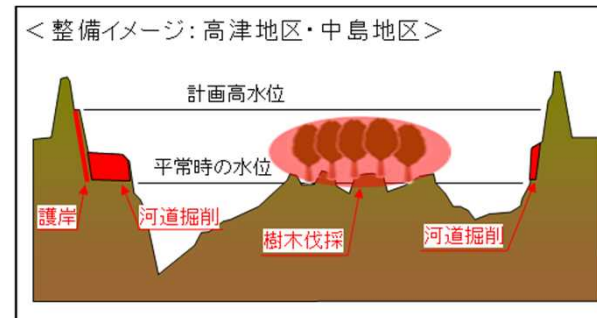
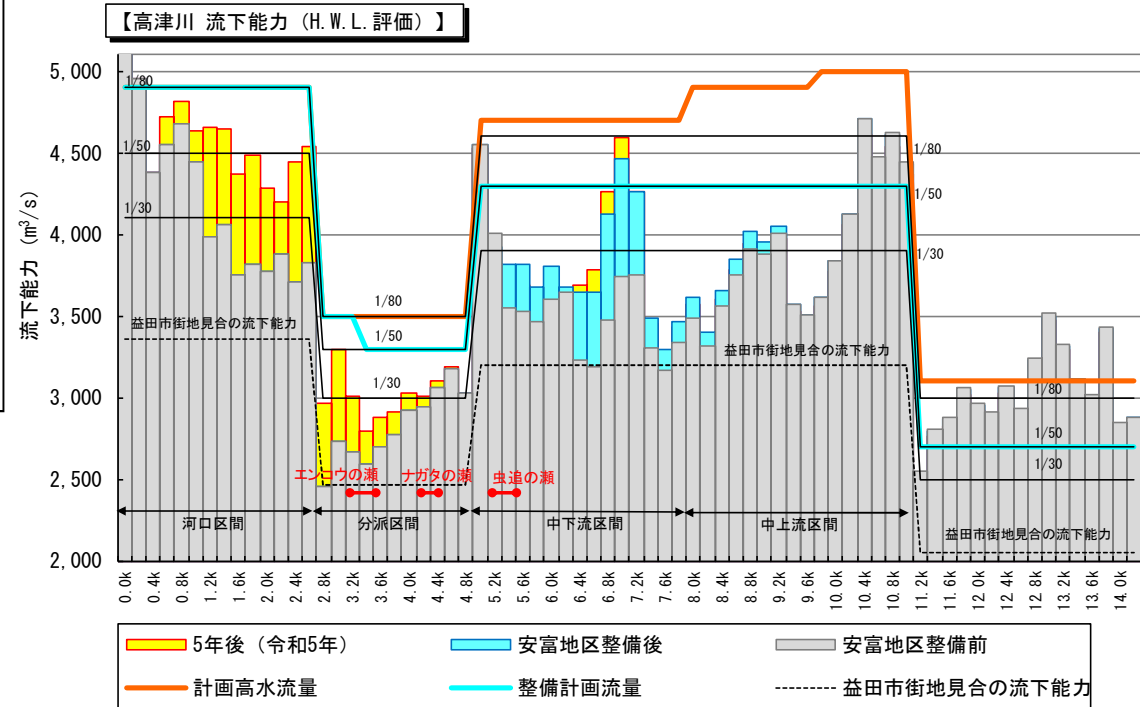
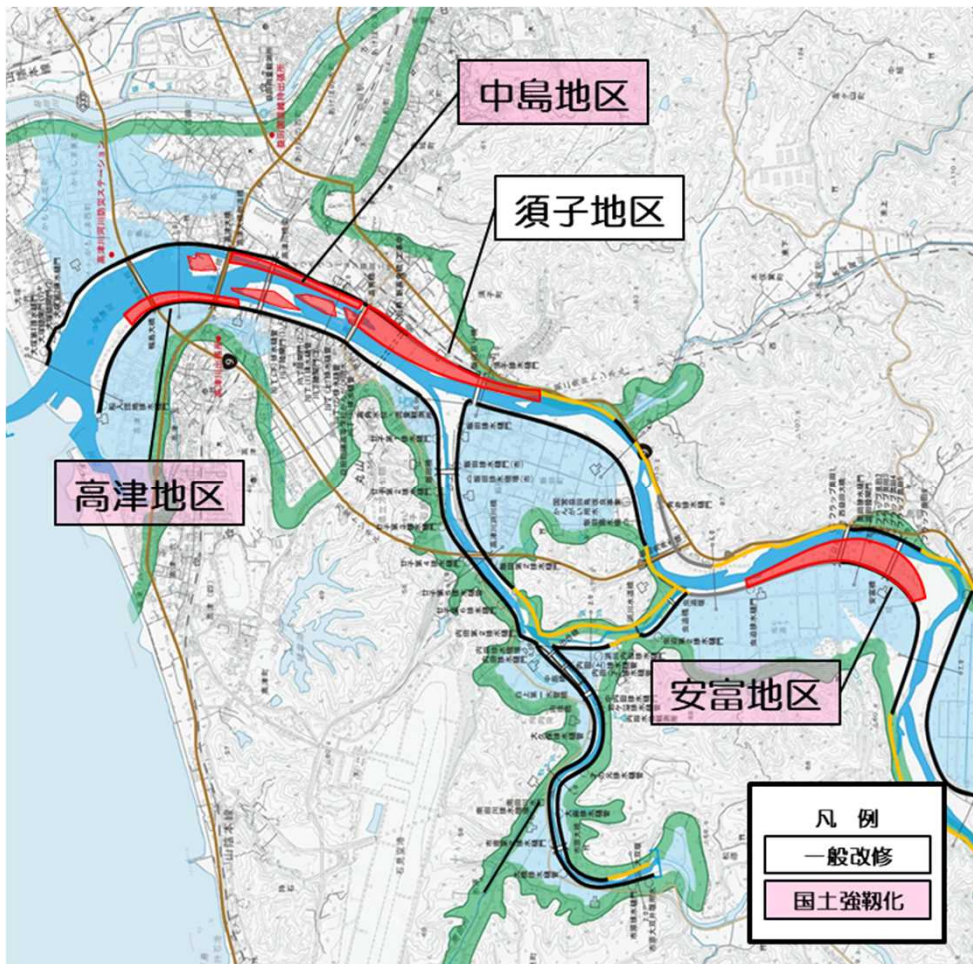
- ✓ 防水や移設等の対策により、電子基準点網等の耐災害性等の強化対策を概ね完了(約1,000件)



浸水時の機能確保のための防水対策

2. 高津川における河床掘削・樹木伐採の予定

- 高津川においても、平成28年度より実施している安富地区の掘削を早期に完了させるとともに、さらなる治水安全度向上のため、安富地区以外についても樹木伐採、河床掘削を進めていく。
- 国土強靱化で対象としている令和2年までの対策に加え、令和5年度までの当面5年間に、下記の樹木伐採、河床掘削を予定している。河床掘削にあたっては、掘削箇所の土砂状況を踏まえ、必要に応じて対策（マルチング等）を実施する。
※掘削箇所や完了時期は今後変更となる可能性がある。

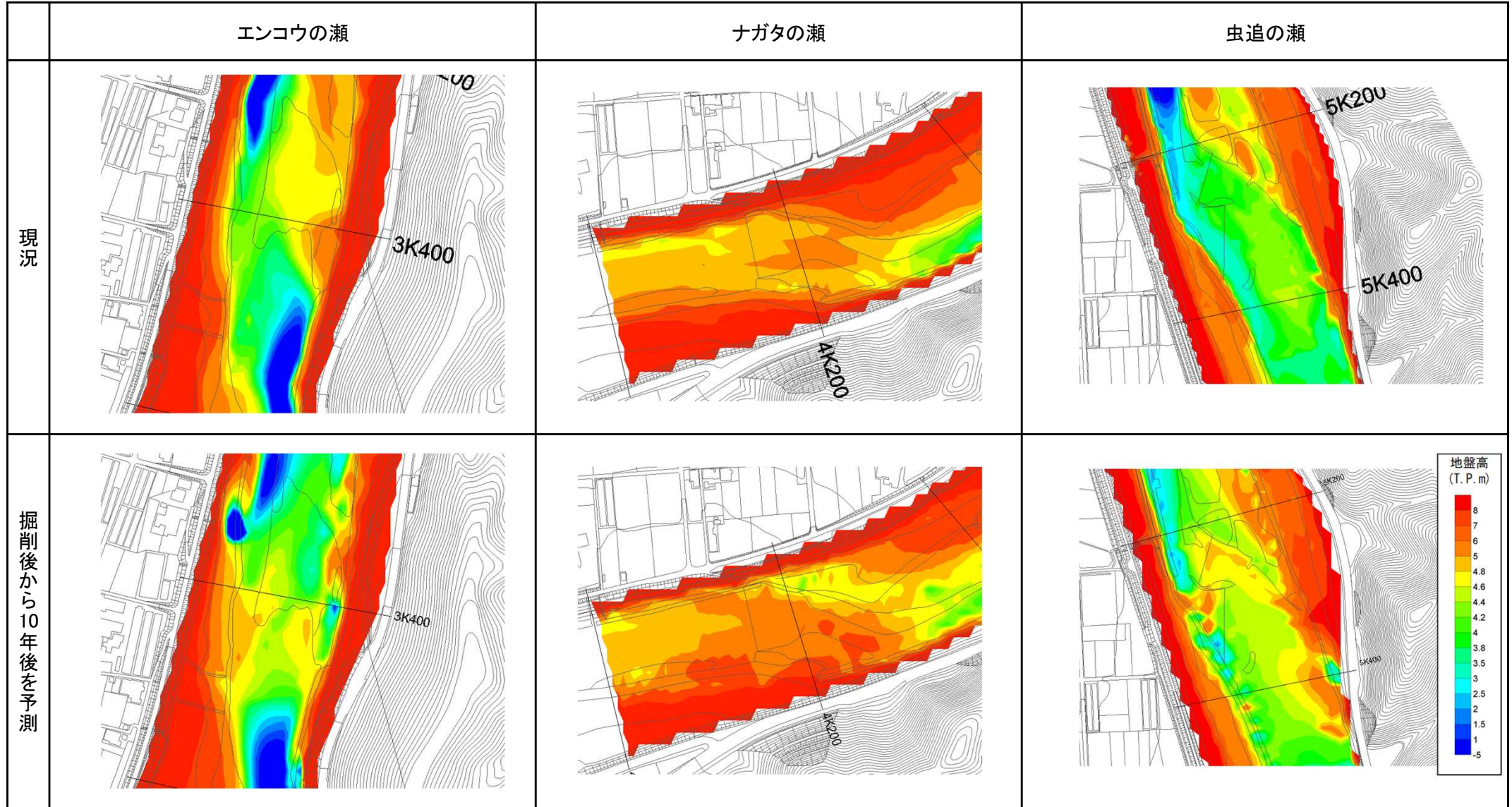


3. 河床掘削の影響分析

- 今後の河床掘削が産卵場に与える影響について河床変動予測モデルを用いて分析。
- 河床掘削後から10年後の地形を予測し、その地形における産卵適正度を算出した。
- いずれの瀬においても、現況から瀬周辺の河床形状が変化。

河床高の変化

※10年予測時の外力：H23年～H27年の実績流況×2回を使用



3. 河床掘削の影響分析

- 産卵適正度は掘削から10年後においても維持されている。
- エンコウの瀬、ナガタの瀬においては、産卵適正度の高いエリアは変化するものの、全体の面積はあまり変動しない。
- 虫追の瀬は、上流側で掘削した影響により土砂の攪乱が起き、産卵適正度の高いエリアの面積が増大した可能性がある。

産卵適正度の変化

